

# 「OpenEL」国際標準化へ大きく前進

## 11月に世界仕様を提出



中村 委員長

組込みシステム技術協会（JASA、築田稔会長）は、技術本部プラットフォーム研究会において「OpenEL」の仕様策定を進めるとともに、国際標準化を推進している。

先月、世界的な標準化団体であるOMGのアーキテクチャ委員会で、JASAが提出した「HAL4RT」のRFP（提案依頼書）が可決され、OpenELの国際標準化が大きく前進した。

今後は11月にOpenELの世界仕様をOMGに提出予定。その後、議論を通じて仕様の改訂を行い、来年6月に予定されるOMGの採択で認め

られれば国際標準として承認される。

OpenELは、ロボットや制御システムなどのソフトウェアの実装仕様を標準化する組込みシステム向けのオープンプラットフォーム。

ソフトウェアのベース部分をプラットフォーム化することで、異なるハードウェアでもアプリケーションを動作できるようにする。

これによりソフトウェア

アの移植性や再利用性が高まり、コスト削減や生産性向上につながる。

11年4月にOpenELの仕様策定作業を開始し、12年12月からOMGに国際標準化を提案。13年4月からは正式にOMGのドメイン会員となり、国際標準化の作業を進めてきた。

JASAプラットフォーム研究会の中村憲一委員長は「今回の採択の可決は国際標準化への大きな一歩。OpenELの国際標準化を進め、日本のサービスロボット大国の実現に貢献したい」と話す。